

【担当者名】 武田涼子 r-takeda@hoku-iryo-u.ac.jp 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人

【概要】

本授業科目では、骨折、軟部組織損傷、関節変性疾患、末梢神経損傷、脊髄損傷など、代表的な骨関節疾患に対する理学療法評価から介入プログラム立案までの一連の理学療法過程について学修する。また、理学療法を実践するうえで必要になる各疾患および病期を考慮したリスク管理に関しても理解を深める。

【学修目標】

代表的な運動器疾患理学療法の一連の流れを理解する。特に、運動器に生じる病理変化を把握し、日常生活活動に必要な運動にどのような影響を与えるのかを判断するための、評価項目と理学療法介入方法について理解することができる。

1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。
2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。
3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。
4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	動作分析(運動器疾患)1	基本動作において、一般的に多く取られる動作パターンを学ぶ。 運動器疾患を有する場合に動作パターンに影響を与える要素を学ぶ。 観察による運動分析の実施方法を学ぶ。	武田涼子
2	末梢神経損傷	評価項目および介入プログラムを学ぶ。 末梢神経損傷におけるリスク管理を学ぶ。	武田涼子
3	肩関節・上腕の疾患	肩関節周囲炎、腱板損傷、肩関節脱臼、インピンジメント症候群などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。	河治勇人
4	肩関節・上腕の疾患	肩関節・上肢の疾患におけるリスク管理を学ぶ。 肩関節・上腕疾患がある場合の動作の特徴を学ぶ。	河治勇人
5	肘関節・前腕の疾患 手関節・手指の疾患	上腕骨顆上骨折、テニス肘、野球肘などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 肘関節・前腕の疾患におけるリスク管理を学ぶ。 橈骨遠位端骨折、手根管症候群、手指腱損傷などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 手関節・手指の疾患におけるリスク管理を学ぶ。	佐々木祐二
6	関節リウマチ	評価項目および介入プログラムを学ぶ。 関節リウマチにおけるリスク管理を学ぶ。	武田涼子
7	高齢骨関節疾患	骨粗鬆症などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 ロコモティブシンドロームについて学ぶ。 高齢骨関節疾患におけるリスク管理を学ぶ。	佐々木祐二
8	動作分析(骨関節疾患)2	一般的な歩行分析と、運動器疾患がある場合の歩行について学ぶ。	武田涼子
9	股関節疾患手術後の理学療法	股関節疾患に対する骨接合術や人工関節置換術前後の理学療法について学ぶ。	武田涼子
10	股関節・大腿の疾患1	大腿骨近位部骨折、大腿骨骨幹部骨折などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 理学療法実施状のリスク管理を学ぶ。	武田涼子
11	股関節・大腿の疾患2	変形性股関節症に対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 理学療法実施状のリスク管理を学ぶ。	武田涼子
12	膝関節疾患手術後の理学療法	膝関節疾患に対する骨接合術や人工関節置換術前後の理学療法について学ぶ。	山根裕司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	膝関節・下腿の疾患1	変形性膝関節症の保存療法、手術療法に対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。	山根裕司
14	膝関節・下腿の疾患2	膝関節の靭帯損傷、半月板損傷などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 膝関節・下腿の疾患におけるリスク管理を学ぶ。	山根裕司
15	足関節・足部の疾患1	果部骨折、足関節のスポーツ障害に対する評価項目及び介入プログラムを学ぶ。	武田涼子
16	足関節・足部の疾患2	アキレス腱損傷、外側側副靭帯損傷などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 足関節・足部の疾患におけるリスク管理を学ぶ。	武田涼子
17	頸椎の疾患 胸椎・胸郭の疾患	頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 頸椎の疾患におけるリスク管理を学ぶ。 黄色靭帯骨化症、側彎症などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 胸椎・胸郭の疾患におけるリスク管理を学ぶ。	佐々木祐二
18	腰椎・骨盤帯の疾患	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などに対する評価項目および介入プログラムを学ぶ。 腰椎・骨盤帯の疾患におけるリスク管理を学ぶ。	佐々木祐二
19	脊髄損傷1	頸髄損傷、脊髄損傷などの病態と評価項目を学ぶ。	佐々木祐二
20	脊髄損傷2	頸髄損傷、脊髄損傷のADLやリスクについて学ぶ。	佐々木祐二
21	脊髄損傷3	頸髄損傷、脊髄損傷などに対する介入プログラムを学ぶ。	佐々木祐二
22	骨端症 熱傷・褥瘡	評価項目および介入プログラムを学ぶ。 骨端症におけるリスク管理を学ぶ。 熱傷および褥瘡におけるリスク管理を学ぶ。	佐々木祐二
23	スポーツ障害	スポーツ障害の理学療法について、一般的な評価方法と目標設定、予防について学ぶ。	山根裕司

#### 【授業実施形態】

##### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

- ・定期試験100%（定期試験受験資格は学則に準ずる）
- ・定期試験および追再試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

#### 【教科書】

高柳清美 他 著 「運動器障害理学療法学テキスト」改訂第2版 南江堂 2016年

#### 【参考書】

松野丈夫 他 編集 「標準整形外科学 第13版」 医学書院 2016年  
医療情報科学研究所 編集 「病が見える Vol.11 運動器・整形外科」 メディックメディア 2017年  
中山彰一 他 編集 「運動器疾患の理学療法」 神陵文庫 2008年

#### 【学修の準備】

- ・授業内容に記載の疾患について、第2学年開講の整形外科学および病理学、解剖学、運動学の講義内容を復習して臨むこと。（予習80分）
- ・講義資料、講義メモや講義内で示した練習問題を中心に学修を深めること。（復習80分）
  1. 対象疾患の病態（組織や器官の病理変化）について、運動学や解剖学の知識を踏まえて理解すること。
  2. 整形外科的治療と理学療法実施上の注意点、禁忌を理解すること。
  3. 対象疾患の病態と機能障害の因果関係を理解すること。
  4. 対象疾患に対する一般的な理学療法評価項目の評価目的を理解すること。
  5. 対象疾患に対する一般的な理学療法介入方法を理解すること。

#### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

武田涼子（理学療法士） 佐々木祐二（理学療法士） 山根裕司（理学療法士） 河治勇人（理学療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

理学療法士としての実績を活かし、実際の症例経験を踏まえた運動器疾患に対する理学療法について講義する。